



図書館学生スタッフ 突撃インタビュー

Liss × 安田利枝

発行日：2018年2月9日
インタビュアー：長谷川愛花
カメラマン：小林昭友

おすすめの本はありますか？

「ちょっと気になる社会保障」という本がおすすめです。この本を書いた方は社会保障論の専門家なのですが、実はこの大学の短大時代の教員だったんですよ。それもあって、ちょっと気になって読んでみたら、すごく良い本で。社会保障って、みんなが誤解しがちだったり、思い込みだったりする部分が多く多いんですよ。例えば、「私たち世代は年金がもらえないんじゃないの？」とか「自分で積み立てた方がいい、民間保険の方がいい」とか、いろんなことが言われているじゃないですか。いろんな思い込みをばしばしと、これはこうだから間違っているとズバッと指摘して、社会保障の本質的なところを教えてくれる本です。学生と話していると、そういう思い込みの部分が多いので、学生の皆さんは老後なんてまだ遠い先と思っているかもしれませんが、人生設計を考えると若いころからこういうことを頭に入れて考えると随分違ってくるかなと思うので、この本をおすすめします。



安田利枝先生
嘉悦大学 経営経済学部 教授

昔と今ではどれくらい本に対する興味が変わりましたか？

小さい頃はファンタジーが好きで、中学・高校時代は思想や歴史、大学に入ってからには児童文学に興味を持ちました。今は仕事に必要なものを読む機会が断然多いので、ファンタジーを読むことは減りましたが、当時は読み始めたら止まらなかったです。

学生時代はどんな過ごし方をしていましたか？

大学時代は真面目に授業に出席していました。私のノートは相当重宝がられましたよ。あとは、児童文化研究会に所属していました。青梅市の方にあった施設に毎週通って、子供たちに勉強を教えたり、遊んだり、人形劇をやったり、お話をしたりというような活動をして、そこで児童文化というものに触れていました。

学生のうちにしておくべきことはありますか？

この大学に勤めて一番思うのが、すぐに諦める、あるいは自信を持ってないでいる学生がちょっと多いかな、そこがすごくもったいなくて残念に思います。せっかく大学の4年間があるなら、自信を持てるなにかを作って卒業してほしい、というのが切なる願いです。なにかをやり抜いてその達成感がないと自信は生まれないじゃないですか。小さなことでいいので、「これをやり遂げた」という積み重ねが自分の中の自信を培ってくれるものだと思います。なんでもいいので、一步踏み出してチャレンジしてほしいです。

最後に、嘉悦生に向けて一言お願いします

勉強や学びは生涯続くものであり、大学で終わりというわけではないので、大学でしかできない学び方を学ぶことが大事だと思うんですよ。今はネットを検索すればすぐに情報がいろんな形で入ってくるので、一つ一つの知識が重要ではなく、質を見分ける力や、信頼できる情報はどこからどういう風にとってくるんだとか、生涯学び続けるためのベースになるような学び方を身に付けることが大事じゃないかなと思います。



インタビューを終えて

初めてのインタビューで緊張しましたが、安田先生の穏やかな雰囲気のおかげで安心してインタビューができました。本に対するの考えや嘉悦生へのメッセージなど、貴重なお話を聞くことができました。先生が話していた自信を持てる何かを作ることが自分もできたらいいと思いました。安田先生、本当にありがとうございました。

インタビューに登場した本



ちょっと気になる
社会保障
権丈善一著

